

江戸川・ふれあい松戸川 生き物いきいきプロジェクト

第1回 江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり協議会

2026年4月27日(月) 開催

第1回 江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり協議会が開催され、今後のプロジェクトの軸とすべき江戸川・ふれあい松戸川の魅力や課題について意見交換を行いました。

町会・自治会や活動団体、学識経験者、行政など多様な主体が参加しました。

日時： 2026年4月27日(月) 10:00～11:30

会場： 松戸市衛生会館3階 会議室

議題： (1) 江戸川・ふれあい松戸川の魅力と課題
(2) 社会実験について

開会の挨拶

事務局の河川清流課長からの開会挨拶で、本協議会の趣旨やこれまでの経緯について説明がありました。



検討スケジュール

令和8年度の協議会における検討スケジュールとして、現状と課題、対応方針や実施していく上での目標などの“かわまちづくりの基本方針”を検討したうえ、基本方針を実現するための個別施策を検討し、かわまちづくりのコンセプトとしてまとめることが説明されました。

議題(1) 江戸川・ふれあい松戸川の魅力と課題について 長谷川教授(アドバイザー)

江戸川・ふれあい松戸川の特徴と魅力について、近隣の代表的な河川(中川・荒川・隅田川)との比較を通じて整理いただきました。

- ・ 駅からのアプローチが短く、分かりやすいこと
- ・ 土手の高さが比較的低く、空間の広がり直感的に理解できることから、心理的にも興味が湧くこと
- ・ 水辺から土手、樹林帯、都市景観へと連続する多層的な風景によって景観が形成されていること
- ・ 都市における開放的な空間に加え、静かな水面、既存の樹木の利活用により、多様なヒューマンスケールの滞在空間を創出できる可能性を秘めていることまた、「柔らかな高木、ヨシ原などの既存の木立は都市内において貴重な自然環境を形成しており、これを適切に保全・活用することで、江戸川の空間的特徴がより一層活かされる」とのご助言をいただきました。



協議会各委員

長谷川教授の発表を受けて各委員からのご意見が挙げられました。

- ・ 活動団体の長年の経験から、江戸川は身近であるがそれゆえに取組も局所化しやすく、全体像を俯瞰して考えることの重要性を再認識した。
- ・ 漁業関係者や野鳥観察者など多様な主体の関与が本河川の特徴であり、今後の利活用においても多様な視点を取り入れた総合的な検討が必要である。



- ・ これまでのイベントの経験から、駅から近くアクセス性が高く、空の広がりを感じられるすごくいい場所であることに共感した。
- ・ 対岸よりも非常に自然に溢れているこの環境を活かしながら、今後もスムーズにイベントができるような場所にしていきたい。
- ・ 活性化の観点からは、駅周辺の商業者との連携や神社仏閣を含む地域の歴史と連動した情報発信・PRができれば、より一層の魅力向上につながると感じている。
- ・ 子育て世代の視点から、江戸川は日常的な利用や親子の自然体験の場としてポテンシャルがあると感じている一方で、駅からのサイン不足等により認知度が低く、地域外からの来訪や日常的な利用にはつながっていないと感じている。また、飲食、休憩、トイレ、おむつ替え等の設備環境の不足が利用のハードルになっていると感じており、安全性や見守りの面への不安もあると感じている。こうしたことから、多様な利用者が安心して利用できる環境整備とあわせて、親子連れをターゲットとした広報、情報発信の工夫も重要であると考えている。
- ・ 江戸川・ふれあい松戸川は駅からのアクセス性が高く、電車利用でも広域から参加者が訪れるなど探鳥地として優れた立地条件を有していると感じている。また、約100種の野鳥が確認できるなど生物多様性が高く、自然環境としての魅力が非常に大きいと感じている。一方で、季節によっては草が繁茂して歩きにくく、自然をいかに効率よく管理するかが課題だと思う。ふれあい松戸川周辺の自然環境を保全していきたいが、皆さんと協力しながら取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 季節によっては雑草や虫の発生など課題はあるものの、日常的な利用を通じてその魅力を実感している。また、駅周辺から連続する良好な雰囲気の中に大規模な自然環境が広がり、さらに寺社仏閣などの歴史資源とも近接していることから、自然と歴史が一体となった地域特性を有していると改めて感じた。こうした特性を踏まえ、広域からの来訪を促進し、地域の賑わい創出につなげていくことが重要であると考えている。



- まず地域を知ってもらうことを目的に、初めて訪れる人を主な対象としたまち歩き事業の実施や、観光案内所を拠点として坂川から江戸川・ふれあい松戸川へと誘導したいと考えている。



- 一方で、坂川の橋を越えた先では歩道の幅が狭い箇所があり、アクセス性の改善の必要性も感じている。
- 江戸川の船上から見るふれあい松戸川は自然に溶け込んでいるが、初めて訪れる人にとってはその存在自体を認識しにくいと感じている。また、土手を歩く利用者においても、川の存在や特徴に気づかないケースが多いと感じている。このため、川の認知度を高め、その魅力がより伝わるような取組が必要であると考えている。
- 坂川周辺では魚や水鳥、たまにカワセミなども確認できる環境であり、取組の範囲を坂川まで広げていただくと大変ありがたい。土手へのアクセス動線について、自転車利用者や親子連れにとって上り下りが負担となっている箇所が見受けられ、利用のしやすさ向上の観点から改善の必要性があると感じている。

千葉県東葛飾土木事務所(オブザーバー)

平日昼間でも自転車利用者やジョギング、散歩など多くの人が行き交っており、特に散歩利用が多い、こうした利用者が足を止めてゆっくり滞在したくなるような空間になることが望ましい。



江戸川河川事務所(オブザーバー)

江戸川・ふれあい松戸川周辺は、すでに水辺空間や利用者、自然環境など必要な要素が概ね整っており、長年の利用や散歩などを通じて地域資源としての蓄積があると感じている。一方で、これらの個別要素を一体的に整理し「パッケージ」として磨き上げることで、より魅力的なまちづくりにつながると考えている。また、国の事業である「かわまちづくり」に登録されるために、本地区が有する既存資源を有効活用し、取組の完成度を高めていくことが重要である。こうした取組により、地域の賑わいや経済的な波及効果が生まれ、若い世代の参画も促される良いサイクルができるのではないかと期待している。



秋田会長

これまでの各委員の意見について、以下の5つに整理いただきました。

- ①: 宿場町としての歴史や神社仏閣など、地域に蓄積された時間・文化的な積層を大事にする。
- ②: 多様な主体の関わりを大切にし、人・動植物を含めた生き物が、「いきいきするような場所」を目指す視点が重要であり、多様性の中で人の関与を広げていく。
- ③: 自然の管理の在り方については、みんなの合意形成が必要であるとともに、収益を含めた仕組みづくりが必要。
- ④: 子育て世代の利用環境、自転車動線や歩行者動線の安全性など、利用のしやすさを高める基盤的インフラの整備が必要である。



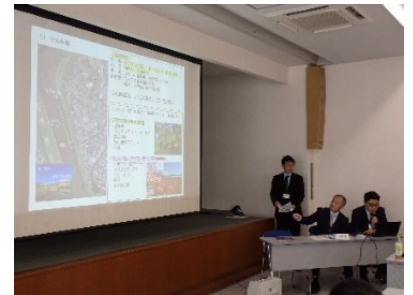
- ⑤: 江戸川・ふれあい松戸川だけではなく、坂川も含めた松戸全体の水辺ネットワークとして捉え、水辺空間の価値を高めていくことが重要である。

上記を踏まえて長谷川教授より、江戸川・ふれあい松戸川および坂川は都市河川として極めて高いポテンシャルを有しており、単なる「自然豊かな空間」という言葉にとどまらない。ただ、都市と生き物、人の多様な関係性の中で、その「自然豊かな空間」の位置づけを改めて考えていかないといけない。その考えが見えたときに、ここだけの場所がつかれるのではないかと思った。「川を持っているまちが羨ましい」と思われるような状態にしていけると素晴らしい。とのコメントをいただきました。

議題(2) 社会実験について

開催予定の社会実験について、事務局より、今後の取組および関連イベントについて説明がありました。

5月7日には、ふれあい松戸川の樋野口から古ヶ崎にかけて草刈りを実施する予定であり、参加希望者の募集が行われました。また、5月16日には日本野鳥の会千葉県による探鳥会が松戸駅西口を集合場所として実施されるほか、5月30日には古ヶ崎広場において春の花まつりが開催される旨の案内がありました。



また、オブザーバーの江戸川河川事務所からは、国土交通省として社会実験を非常に重要視しており、既にこれだけの利用方法があり、更なる発展のためにこういうことができる、ということについて、実際にどんどん使っていただき、不都合なところを国土交通省に整備してもらうという枠組みで考えていくのが一番と助言がありました。

長谷川教授からは、パッケージの中でマナー教育を行う必要性について、河川敷利用のマナー問題について民間事業者と連携しながら、当たり前のことを教え、マナーのいいユーザーに利用していただくのが大事であることや、社会実験としてまずは、江戸川の存在自体の認知を上げていくために、今年から着手し、知っている人を増やす。できてから、さあどうぞと言ってもなかなか人は来なくて、できるまでいかにアピールするかというのが大事で、そのためには川の存在を知る、その楽しさ、空間の気持ち良さを知ってもらう。そのためには、小規模でもテントを張ってコーヒーを売ったりビールを売ったり、週末だけ江戸川の土手でポップアップショップが並んでいるみたいなことでも、とにかく来てもらうきっかけをつくって、知ってもらうということはすごく大事であるとの助言がありました。

閉会の挨拶

閉会にあたり、事務局より今後の協議会開催予定について連絡がありました。次回、第2回江戸川・ふれあい松戸川かわまちづくり協議会は、令和8年7月7日(火)10時より開催予定であり、会場は松戸ビル20階、かつて回転レストランがあった眺望のいい会場で開催する予定である旨の案内がありました。